

平成31年2月3日執行の陸前高田市市長選挙における選挙の効力及び当選の効力に関する審査の申立てについて、次のとおり裁決した。

令和元年6月14日

岩手県選挙管理委員会

委員長 八木橋 伸之

裁 決 書

岩手県陸前高田市広田町字山田118番地

審査申立人 村上 富夫

岩手県陸前高田市気仙町字中井194番地

済生会陸前高田診療所職員住宅201

審査申立人 伊東 紘一

岩手県陸前高田市小友町字瀬沢134番地10

審査申立人 佐藤 悦男

岩手県陸前高田市米崎町字脇の沢49番地

審査申立人 熊谷 耕太郎

岩手県陸前高田市小友町字鳥越1番地1

審査申立人 吉澤 熙

岩手県陸前高田市横田町字久連坪58番地1

審査申立人 菅野 広紀

岩手県陸前高田市気仙町字上長部150番地

審査申立人 菅野 恵二郎

東京都豊島区南池袋2丁目49番7号

池袋パークビル1階EVE法務行政書士事務所

審査申立人代理人 特定行政書士 戸川 大冊

上記審査申立人（以下「申立人」という。）から平成31年4月1日に提起された平成31年2月3日執行の陸前高田市市長選挙（以下「本件選挙」という。）における選挙の効力及び当選の効力に関する審査の申立て（以下「本件審査の申立て」という。）について、岩手県選挙管理委員会（以下「当委員会」という。）は、以下のとおり裁決する。

主 文

本件審査の申立てをいずれも棄却する。

審査申立ての要旨

申立人は、本件選挙における選挙の効力及び当選の効力に関し、平成31年2月12日付けで陸前高田市選挙管理委員会（以下「市委員会」という。）に対し、異議の申出をしたところ、市委員会は、同年3月12日付けでこの異議の申出をいずれも棄却する決定（以下「原決定」という。）を行った。申立人は、原決定を不服として、同年4月1日に当委員会に対し、原決定を取り消し、本件選挙における当選人戸羽太の当選を無効とする裁決を求め、本件審査の申立てを行ったものである。

その理由とするところを審査申立書、市委員会の弁明書に対する反論書及び口頭意見陳述に従って要約すれば、次のとおりであると解される。

1 当選した戸羽太候補（以下「戸羽候補」という。）の子息は東京の大学に通学し、陸前高田市内に居住の実態がないことは、市職員には周知の事実であり、選挙人の居住実態を疑う具体的な事情があったにもかかわらず、自らが学生である旨の発言をしなかったことをもって投票を認めたことは、本件選挙の管理執行の手續に関する規定違反があったというべきであり、選挙の効力を無効とすべきである。

2 本件選挙における投票日当日の投票には、記号式投票用紙が使用されたにもかかわらず、同日投票した選挙人の中に記名式投票用紙を交付され、投票した者がいることは、本件選挙の管理執行の手続に関する規定違反があったというべきであり、選挙の効力を無効とすべきである。

3 本件選挙において、当選した戸羽候補と次点の紺野由夫候補（以下「紺野候補」という。）の得票数の差5票に対して無効票が多いことは異常であり、恣意的な判定がなされた疑いが強いことから、無効投票の中に有効とされるべき票が含まれている可能性があり、両候補の有効票の中に無効とされるべき票が混入していないかの検証も必要である。当選無効の事由となり得べき有効得票数の算定の違法が強く疑われるため、疑問票及び無効票の有効、無効を改めて判断すべきである。

裁決の理由

第1 当委員会における審理経過

1 当委員会は、本件審査の申立てにつきその要件を審査し、その結果、適法なものと認めたのでこれを受理し、市委員会からは弁明書を、申立人からは反論書をそれぞれ徴した。

2 また、市委員会及び申立人に対して関係する証拠物件の提出を求めるとともに、申立人には口頭意見陳述の機会を与え、申立人、市委員会委員長及び市委員会事務局長等職員3名に対して質問を行い、選挙長、選挙立会人（以下「立会人」という。）2名、審査係2名、投票管理者4名及び本件選挙の投票用紙交付係4名に対して証言を求め、慎重に審理を行った。

3 一般に、選挙の効力に関する争訟において選挙が無効とされるのは、公職選挙法（昭和25年法律第100号。以下「法」という。）第205条第1項の規定により、その選挙が選挙の規定に違反して行われ、かつ、選挙の結果に異動を及ぼすおそれがある場合に限られるとされ、同項の規定による「選挙の規定に違反する」とは、「主として選挙管理の任にある機関が選挙の管理執行の手続に関する明文の規定に違反すること、又は直接そのような明文の規定がなくとも、選挙の管理執行の手続上、選挙法の基本理念たる選挙の自由公正の原則が著しく阻害されること」（昭和61年2月18日最高裁判所判決）と解されており、更には、「選挙の結果に異動を及ぼすおそれがある場合」とは、「その違反がなかったならば、選挙の結果、すなわち候補者の当落に、現実が生じたところと異なった結果の生ずる可能性のある場合をいうものと解すべきである。」（昭和29年9月24日最高裁判所判決）とされていることから、当委員会としては、これらの判断を前提にして審理を進めた。

こうした観点から、当委員会が申立人の主張について審理した結果は、次のとおりである。

第2 当委員会の判断

1 申立て理由1について

(1) 市委員会から提出された弁明書及び関係書類等並びに市委員会事務局長等職員の証言等を総合すると、本件選挙における戸羽候補の子息の投票については、概ね以下の事実が認められる。

ア 市委員会が平成31年1月26日を基準日として調製した選挙人名簿は、市住民基本台帳担当課（以下「住基担当課」という。）が作成する住民基本台帳と整合がとれており、その後の名簿の更新は、住基担当課の情報を基に行われた。

イ 市委員会は、学生の居住地と投票との関係について、広報りくぜんたかた2019年（平成31年）1月号お知らせ版及び市長選挙選挙公報において、「学生などで、本市に住民登録をしていますが、実際には、ほかの市町村に居住している人は、住所がないと判断され、投票できない場合がありますので、注意してください。」と記載して周知した。また、本件選挙及び市議会議員補欠選挙（以下「市議補選」という。）の入場券において、「修学のために修学地に居住する学生の方で陸前高田市に住民登録したままの方は、陸前高田市の選挙人名簿に登録されるべきでなかった者として取り扱われ、入场券が届いても投票できませんのでご注意ください。」と記載して周知した。

ウ 市委員会が学生の投票について事務局職員に周知するために作成した「期日前、不在者投票における学生による投票について」の中で、「本人から学生である旨の申告があった場合、地理的条件を確認して判断。遠方の学校であれば、判例に基づき投票できないことを説明。」、「本人から学生である旨の申告がない場合、本人からの申告がない限り、居住実態の確認は難しい。選挙人名簿の本人照合が行われれば投票を認めている。」と記載されている。

エ 戸羽候補の子息については、入场券と選挙人名簿を照合した際、選挙人名簿に投票不可等の表示がなかったほか、当該選挙人は投票事務従事者に対して自ら学生である旨の申告をせずに投票を行った。また、市委員会において、本件選挙に

おける選挙人の居住実態については、これを疑わせるような事実は認められなかった。

(2) 以上の事実及び当委員会の調査を前提に判断すると、次のとおりとなる。

ア 一般に、市町村の選挙管理委員会が法第22条第3項に基づき選挙を行う場合に選挙人名簿の登録は、当該選挙だけを目的とするものではなく、当該選挙が行われる機会に選挙人名簿を補充する趣旨でされるものであるから、その手続は、当該選挙の管理執行の手続とは別個のものに属し、当該登録手続における市町村の選挙管理委員会の行為が法に違反するとしても、直ちに法第205条第1項所定の選挙無効の原因である「選挙の規定に違反する」ものとはいえない（昭和53年7月10日最高裁判所判決）と解されている。

イ また、市町村の選挙管理委員会が選挙時登録の際に被登録資格の調査の疎漏により被登録資格の確認が得られない者を選挙人名簿に登録したとしても、当該瑕疵は結局選挙人名簿の個々の登録の誤り、すなわち選挙人名簿の脱漏、誤載に帰するものにすぎないから、法第24条及び第25条所定の手続によってのみ争われるべきものであり、それだけでは選挙人名簿自体の無効をきたすものでもなければ、また選挙時登録全部を無効にするものでもなく、当該瑕疵があることをもって直ちに選挙無効の原因である「選挙の規定に違反する」ものとはいえない（昭和60年1月22日最高裁判所判決）と解されている。

ウ 選挙人名簿の登録に当たっては、被登録資格を有する者のみを選挙人名簿に登録すべきであって（法第22条）、被登録資格を有することについて確認が得られない者を登録してはならないのであるが（公職選挙法施行令（昭和25年政令第89号）第12条）、当委員会の調査によれば、市委員会は、本件選挙の実施に当たっては、住民基本台帳を基に選挙人名簿を調製したことが認められる。また、陸前高田市に住民登録している、他の市町村に居住する者については、市内に生活の本拠がないものとして投票できない旨をあらかじめ周知している中、選挙人から他の市町村に居住している旨の申出がなかったため、投票管理者及び投票事務従事者（以下「投票管理者等」という。）には、戸羽候補の子息である選挙人の居住実態を疑わせるような事情はなかった。

エ したがって、戸羽候補の子息が投票したことをもって、本件選挙が選挙の規定に違反して行われたとはいえないと解するのが相当である。

オ 以上により、申立人の選挙無効の主張には理由がない。

2 申立て理由2について

(1) 市委員会から提出された弁明書及び関係書類等、市委員会事務局長等職員の証言等並びに本件選挙における小友第1及び小友第2投票区（申立人が、投票日当日において、記号式投票用紙を交付されるべきところ記名式投票用紙を交付された選挙人が存在すると主張し、当該選挙人による陳述書が提出された投票区。以下「当該投票区」という。）の投票管理者及び投票用紙交付係の証言等を総合すると、本件選挙の当該投票区における投票事務については、概ね以下の事実が認められる。

なお、本件選挙及び市議補選における投票用紙は、本件選挙については、当日投票が記号式、期日前投票及び不在者投票が記名式であり、市議補選についてはいずれも記名式であった。

ア 市委員会は、投票事務要領を市役所内の掲示板に掲示して投票管理者等に周知した上で、平成31年2月1日、投票管理者等に対して、当該要領の記載内容について説明した。

イ 投票用紙は、投票日前日、投票管理者が市委員会から受け取り、自宅にて保管し、投票日当日朝に投票所に持参した。

この際、投票用紙は、本件選挙及び市議補選それぞれについて、100枚ごとに紙テープで結束された上、小友第1投票区は1,600枚、小友第2投票区は100枚がまとめて梱包されていた。

ウ 投票日当日、投票管理者等は、投票開始前、投票所内において投票用紙の梱包を解き、投票用紙の枚数が所定の枚数と一致していること及び他の投票用紙が混入していないことを確認した。

エ 投票用紙は、本件選挙は白色の用紙に黒刷で「陸前高田市長選挙投票」等と記載され、市議補選はうぐいす色（黄緑）の用紙に黒刷で「陸前高田市議会議員補欠選挙投票」等と記載されていた。

オ 投票用紙交付係は、本件選挙と市議補選それぞれ1人ずつ配置され、投票用紙は、それぞれの机上に置かれた。

カ 当該投票区の投票所は、いずれも午前7時に開かれ、選挙人が投票する前に、投票所内にいる選挙人の前で投票箱を開き、その中に何も入っていないことが示された。

なお、同日執行された市議補選の投票も、同時刻から同会場において行われた。

キ 選挙人を投票受付システム及び選挙人名簿で照合した後、まず、本件選挙の投票用紙を交付し、本件選挙の投票が終了したことを確認した後、市議補選の投票用紙を交付した。

ク 本件選挙の投票用紙を交付する際、投票用紙交付係は、1枚ずつ、所定の投票用紙であることを確認した。

ケ 投票開始後は、投票用紙交付係が、本件選挙と市議補選の投票用紙交付枚数が一致していることを適宜確認しながら交付し、投票所を閉鎖するまでの間、その数は常に整合がとれていた。

コ 投票所を閉鎖した後、投票受付システムの投票者数及び投票用紙の残枚数等を照合し、整合がとれていることを確認した。両選挙ともに、小友第1投票区の投票所における投票者数は1,031名、投票用紙の使用枚数は1,031枚、残枚数は569枚であり、小友第2投票区の投票所における投票者数は93名、投票用紙の使用枚数は93枚、残枚数は7枚であった。

サ 投票管理者が投票録を作成し、記載が真正であることを投票立会人が確認し、投票管理者及び投票立会人が署名した。

シ 未使用の投票用紙は、投票所閉鎖後、投票事務従事者が陸前高田市総合交流センターに持参して市委員会（報告係）に提出し、その場において計数機で計数を行い、投票受付システム及び投票録の投票者数並びに受払書の使用数及び残枚数と整合がとれていることが確認された後、同センター内の開票所から離れた交流室1に保管された。

ス 投票箱は、投票管理者等が施錠した上で、投票管理者及び投票立会人が同センターまで持参し、市委員会に提出した。

セ 本件選挙の期日前投票において準備した投票用紙枚数は2,900枚、投票者数は2,835名、残枚数は65枚であり、投票終了後、投票受付システムの投票者数、宣誓書、選挙人名簿及び投票用紙の残枚数と照合し、整合がとれていた。また、残った投票用紙は、開票終了までの間、市役所内の耐火金庫に保管された。

ソ 本件選挙の不在者投票において準備した投票用紙枚数は180枚、交付枚数は136枚、残枚数は44枚、投票者数は117名である。交付された投票用紙のうち、返付されたもの14枚、投票されなかったものが5枚であり、投票用紙交付調書、投票調書及び各投票区の投票録における投票者数の合計は整合がとれていた。また、残った投票用紙は、開票終了までの間、市役所内の耐火金庫に保管された。

タ 期日前投票及び不在者投票を含めた全ての投票用紙について、印刷枚数、投票者数及び投票用紙の残枚数は整合がとれていた。

(2) 以上の事実及び当委員会の調査によれば、当該投票区の投票の事務は、投票管理者によって適法かつ適正に執行されたものと認められる。

他方、申立人は、本来は記号式投票用紙が交付されるべきであったところ、記名式投票用紙を交付され、投票した者がいると主張しており、当委員会がそのうち1名に口頭意見陳述を行ったところ、本件選挙の投票において交付された投票用紙の色は白色であり、市議補選の投票で交付された投票用紙は黄緑であったと陳述している。

本件選挙の投票用紙は白色、市議補選の投票用紙はうぐいす色（黄緑）であること、投票管理者等が他の投票用紙が混入していないことを確認していること、投票開始から投票所を閉鎖するまでの間、投票者数及び投票用紙の残枚数の整合がとれていたことから、投票用紙の誤交付があったとは認められず、本件選挙が選挙の規定に違反して行われたとはいえないと解するのが相当である。

したがって、申立人の選挙無効の主張には理由がない。

3 申立て理由3について

(1) 市委員会から提出された弁明書及び関係書類等並びに市委員会事務局長等職員、本件選挙の選挙長、立会人及び審査係の証言等を総合すると、本件選挙の開票事務については、概ね以下の事実が認められる。

なお、本件選挙では、法第79条第1項の規定により、開票事務が選挙会事務に併せて行われたことにより、選挙長及び立会人が、選挙会事務とともに、開票管理者及び開票立会人が行うべきものとされている開票事務を行っており、開票に関する次第は、選挙録中に併せて記載された。

ア 開票は、平成31年2月3日午後8時15分から陸前高田市総合交流センターアリーナにおいて行われた。

なお、同日執行された市議補選の開票についても、同時刻から、同会場において行われた。

イ 本件選挙における立会人は3人であり、内訳は、戸羽候補及び紺野候補がそれぞれ届出をした者並びに選挙長の選任した者であった。

ウ 開票は、まず、立会人の立会いの下、全ての投票箱に鍵が掛かっていることを確認した後、投票箱の鍵を開け、開披台に投票用紙を取り出し、混同させた後、表裏天地を揃えずに整理し、明らかな無効票及び点字投票は審査係に回付した。

なお、全ての投票箱は、投票用紙を全て取り出した後、速やかに市役所内の倉庫に移送した。

エ 分類機担当は、分類機により、候補者別の有効票、リジェクト（識別不能票）及び白票・疑問票・無効票に分類し、候補者別の有効票として分類された票は点検担当に、それ以外の票は審査係に回付した。

オ 点検担当は、1人目の係員が、他の候補者の有効票が混入していないか、裏面に記載がないか、1枚ずつ目視による確認を行い、輪ゴムで結束し、その後、2人目の係員が、他の候補者の有効票が混入していないか確認を行い、さらに輪ゴムで結束し、計数機決定箋担当に回付した。この段階で、無効票又は疑問票と思われる投票があるときはトレーに分類した。

カ 計数機決定箋担当は、1人目の係員が、1台目の計数機で計数して200票ごとの束を作り、有効投票決定箋を付して2人目の係員に回付した。2人目の係員は、当該投票用紙から有効投票決定箋を外し、2台目の計数機により再度計数を行い、票数に誤りがないことを確認し、200票ごとの束に再度有効投票決定箋を付して決定箋整理担当に回付した。

また、200票未満の投票用紙についても同様の手順で計数を行い、有効投票決定箋を付し、決定箋整理担当に回付した。

キ 決定箋整理担当は、有効投票決定箋が付された投票用紙を輪ゴムで結束し、点検確認担当に回付した。

ク 点検確認担当（第1計算係長）は、投票用紙が有効投票決定箋と一致していることを確認し、有効投票決定箋に押印の上、トレーに整理した。また、もう1名の担当が票数の集計を行った後、連絡係が立会人に回付した。

ケ 審査係は、開披した際の明らかな無効票、点字投票、分類機担当から回付されたリジェクト及び白票・疑問票・無効票等を、「明らかな有効票」と「審査が必要な疑問票」に分類し、このうち「明らかな有効票」は点検担当に回付し、前記の有効票と同様の手続で立会人に回付した。

「審査が必要な疑問票」は、審査係4名の合議により、実例や判例等を踏まえて投票効力を判定し、投票効力を有する票には投票効力決定箋、無効票には無効事由別に無効投票決定箋をそれぞれ付した。

判定した投票は、審査係が、数が多いものについては第1計算係の2台の計数機で、少ないものについては複数人の手で計数を行い、点検確認担当に持参し、第1計算係長が、投票用紙に付してある決定箋に押印の上、点検確認担当が票数の集計を行った後、連絡係が立会人に回付した。この際、審査係が回付に立ち会った。

コ 立会人は、1名ずつ、自席において全ての票を点検後、各票束に付された決定箋の所定の欄に押印を行い、次の立会人に回付した。この際、立会人から審査係に対し、投票の効力判定の基準の確認がなされたが、最終的には同意の上、決定箋に押印したものと認められる。

サ 全ての立会人による点検を受けた票束は、選挙長に回付し、選挙長が有効、無効を決定した。

シ 選挙長から回付された投票用紙は、第2計算係が集計した。

ス 選挙の結果等を記載した選挙録が作成され、選挙長及び全ての立会人が選挙録の記載が真正であることを確認の上、自ら署名を行ったと認められる。

(2) 以上の事実及び当委員会の調査を前提に判断すると、次のとおりとなる。

ア 一般に、当選の効力に係る争訟において、当選無効の原因となり得べき違法事由は、「当該当選人決定の違法、即ち当選人を決定した機関の構成や決定手続の違法、各候補者の有効得票数の算定の違法、当選人となり得る資格の有無の認定に関する違法等のみがこれに当たるものと解するのが相当である。」（平成4年12月17日名古屋高等裁判所判決、同旨昭和30年9月29日大阪高等裁判所判決）とされている。

イ これに前記事実を照らし合わせると、本件選挙の開票及び選挙会の事務は、選挙長によって適法かつ適正に執行されたものと認められる。

ウ 他方、申立人は、開票事務に当たって、票の不正操作の疑いがあると主張するが、申立人からその事実を裏付ける具体的な証拠は示されておらず、申立人の主張は推測の域を出ないものである。

エ したがって、申立人の当選無効の主張には理由がない。

オ 上記の事実から判断すれば、改めて票の検証及び判断を行うまでもない。

以上によれば、申立人の選挙無効及び当選無効の異議申出を理由がないとした市委員会の判断は相当であり、これに対する申立人の選挙無効及び当選無効を求める審査申立ては理由がない。

よって、当委員会は、主文のとおり裁決する。

令和元年6月10日

岩手県選挙管理委員会

委員長 八木橋 伸 之